

○足引の山行きしかは山人の我に得シメシ山苞ぞこれ

山人は仙人のことである。

二四一

○橘の下吹く風の香くはしき筑波の山を戀ひズアラメカも

二五八

○大君の任の隨、防人に我立ち來れば、ハハソ葉の母の命は、ミ裳の裾摘みあげ
かきなで、チチの實の父の命は、タク綱の白髯の上ユ涙垂り、嘆きノタバク、鹿
兒ジモノ唯獨して、朝戸出のかなしき吾子、アラタマノ年の緒長く逢見ずば、戀
しくあるべし、今日だにも言ごひせむと、惜みつつ悲しび坐せ、若草の妻も子ご
もも、遠近に澤にかくみ居、春鳥の聲のさまよひ、白タへの袖泣き濡らし、手づ
さはり、別れかてにと引き止め、慕ひしものを、大君の命惶み、玉梓の道に出て
立ち、岡の崎イ廻る毎に、萬度かへり見しつつ、遙々に別れし來れば、思ふ空安
くもあらず、戀ふる空苦しきものを、ウツセミの世の人なれば、魂キハル生命も
知らず、海原の恐き道を島傳ひ、イ漕ぎ渡りてあり廻り、我來るまでに、平らけ

く親は坐さね、ツツミなく妻は待たせと、住の江の吾皇神に幣献り、祈りまう
して、難波津に船を浮け据ゑ、八十櫛貫き櫛子調へて、朝びらき我はこぎでぬと
家に告げコソ

三四五、四五四

ハハソ(柞)葉、チチ(樹名)の實、タク綱、アラタマノ、若草、白タへ、玉梓、ウツセミ、魂キハルは
皆枕詞であるが、既に他の歌について述べたものもあり、未だ説かぬものもよく人の知つて居る語で
あるから、説明を省略する。歌の意味は極めて明白である。

○堀江より朝潮満によるコツミ貝にありせは苞にせましを

三四五

コツミは木屑である。ツツミといへば後世の人は罪過とのみ考へて居るが、此語は本来イミの反對即ち
清からぬものといふことで、ケガ(穢)と同義である。不淨は傷病の因であるから、ケガは負傷の意こ
なり、ツツミを疊讀したツツミは、上例のやうに疾病障害をいふにも用ひられたのである。

○惶きや命かがふり明日ユリやカエガイムタネをイムなしにして

三四六

カエガイムタネの語義は判明せぬ。末句は「妹無しにして」の意であらうといはれて居るが、第四區の
分明せぬ限り、断定はできぬ。

○今替る新防人が船出する海原の上に波ナ開きソネ

三九四

波の立つこさをサクこもいふのである。

○道の邊のウマラの梢に匂ホ豆のからまる君ヲハカレか行かむ

四三三

ウマラはウバラ(荊)、君ヲのヲはニに通ずる。歌の意は明白である。

(補遺)。上掲古事記の歌詠中左記を脱したから茲に附記する

○雲雀は天にかける高行くや隼別鷓鴣取らさネ

三九三

隼別王の情人女鳥女王の詠と稱せられる歌で、ササキは仁徳天皇の諱である。歌の意は明白である。

歌詞索引

アギ	四九八	イゴノウ	四九〇	ウラサビ	五一九
アゲクラ	五〇九	イサナトリ	五二二	エ	五二〇
アセヲ	四九六	イシタフヤ	四八六	エミシ	五二〇
アソ	五〇五	石ツツイ	四九二	オスヒ	四八六
アササハフ	五三三	イソクハシ	四九〇	オソアラヒ	四八六
アツサ弓	五〇二	イトコ	五七二	カ	五二六
アツマ	五五七	イのれらえぬ	五六七	カギロヒ	五二六
アヘテ	五三六	イハ橋	五三三	カグヤマ(香山)	五一七
天ヒレ	五三六	イマ木	五一四	肩衣	五四四
アラタマノ	四九六	イラケナク	五〇三	カナルマシヅミ	五六五
アリ衣	五三六	ウ		カリイホ	五一九
		ウズ	四九七	キ	五〇四
		ウタ	四九八	キモムカフ	五〇四
		ウチビサス	五三九		
		ウヂ(氏)	五四四		
		ウツ橋	五三三		
		ウハナリ	四九二		
		ウマ酒	五四二		

ク	クグツ クブツツイ クマガシ 呉のマサビ	五三三 四九二 四九七 五三三
ケ	ケダシクモ	五〇〇
コ	ココロ(心) コツミ(木屑) コナミ コモリク コロモ	四八八 五七五 四九一 五〇七 五〇六
ク	咲き散る サクミ ササ(囃) 刺シケク サヒヅルヤ唐	五七三 五七〇 四九八 五二二 五七〇
シ	シ(知) シキマス シヅクラ シナトユフ シメユフ シヤナ シヤコシヤ 白タヘ	五六 五三三 五四三 四九八 五四二 五二〇 四九二 五三六
ス	スシテ	五五九
タ	タヒカコネの神 タギマ(當麻) タクヅヌ タク袈 タタミコモ タチ(太刀) タツコモ タマカギル タマ垣 玉ダスキ タマヅサ	四九〇 五〇六 四八七 四八九 四九七 四九七 五〇六 五五七 五〇七 五三二 五三二
チ	チ チハヤブル	五〇二 五〇二
ツ		

ツ	ツキノ木 ツクバ(筑波) ツツミ(障) ツヌサハフ ツマヤ ツムガリの太刀 ツルギ	五六一 四九四 五七五 五一 五七 四九七 四九七
ト	トカマ	四九五
ナ	ナヅク ナツの木 ナトリ ナニハ(難波)	四九六 五〇五 四八七 五三六
ニ	ニハ	五三六
ヌ	ヌエ ネ ネモコロ	四八六 五六四
ノ	ノス	五〇一
ハ	ハシキヤシ ハシタテ ハタタキモ 鼻ビシ ハニ	五三三 五〇五 四八八 五四四 五〇〇
延	延ヘケク	五一七
ハ	ハヤシ	五七一
ヒ	ヒケタ ヒコツラヒ ヒサカタ ヒニケニ ヒヒシ(菱) ヒモ(紐) ヒレ(領巾)	四八九 四八六 五六四 五三八 四九九 五二二 五四七
フ	フクシ フハヤ	五一四 四八九
ホ	ホツモリ	五〇〇
マ	マソ鏡	五六四

マソミの鏡	五三三	モユ火のホナカ	四九四
マナガリ	四八七	ヤ	
マ弓	五〇二	山ガタ	五〇三
ミ		ヤスミ知シ	五二五
ミケムカフ	五三三	ユ	
ミツ	四九二	夕ツツ	五三三
ミモロ(御諸)	五〇七	ユフタスキ	五三一
ミヤコ	五二六	ヨ	
ム		ヨクス	五〇二
ムシ象	四八九	ヨケク	五二七
ムシロ	五〇六	ヨチコ	五七一
モ		ワ	
モコ	五〇二	ワカヤル	四八七
モノノフ	五三〇	腋ハサミ持チ	五三〇
モモシキ	五二六	ワクラバ	五四四
モモヅタフ	四九九		

歌詞索引終

大正十五年七月十日印刷
大正十五年七月十五日發行

第一刷 定價金參圓貳拾錢

著 松岡靜雄

版權所有

日本語學

著者 松岡靜雄
發行所 尾高豐作
印刷者 尾藤光之介

東京市麹町區飯田町二丁目二十一番地
東京市神田區表猿樂町二番地

株式會社 開明堂
片山製本所

發行所

東京市麹町區飯田町二丁目二十一番地

刀江書院

電話四谷二五二
振替東京七三二九二八六三

卷之四

二

氏



...



...

...

...

...



